

長沼町子ども発達支援センター くれよん



2021年
9月・10月号



「会話のキャッチボール」ということばがあります。相手⇄自分でことばをうけたり、返事を投げることです。ですが人によっては、自分の話を相手に言い続ける…ボールを投げっぱなしの（私は「会話のボーリング」と呼んでいます。）人がいます。私はお子さんと話す際は特に「ボーリング」ではなく「キャッチボール」を意識しています。とはいえ子どもとの会話は意外に難しく、時には「これなに?」「じゃあこっちは?」「あれは誰?」と、質問攻めになってしまうことも…。やらされてる感は子どもも嫌なものです。これでは「ボーリング」と変わりません。ことばを話し始めたお子さん相手には特に、『大人が代わりに言ってあげる』勇気を持つことも必要だと思います。子どもが今夢中になっていることに大人が寄り添って「赤いクレヨンだね。クレヨンでグールグール、お絵かきしているね。中も塗るんだ～」と夢中をことばにして伝えていきます。会話がどのようなものか、子ども自身は聞きながら学ぶことができます。また、子どもがことばを受け取ったあとどのように投げ返してくるのか?表情で?指さしで?会話を真似して?自分のことばで?…注意深くみていき、大人はさらにとらえやすい球を投げる配慮を。このような関わりの中で子どもは「会話」を学んでいきます。私も子どもに合わせて投げ方を変える、いい選手(?)でありたいものです。(さらに詳しく知りたい方は三浦まで…)

指導に来る際、家でお子さんの体温の確認をお願いいたします。37度以上ある場合は、体調が回復するまで指導はお休みとさせていただきます。

9月/10月の予定



/プール指導

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
8/29 →→	8/30 指導休み →→	8/31 →→	9/1 →→	2 →→	3 →→	4 →→
5 →→	6 →→	7 →→	8 →→	9 →→	10 →→	11 →→
12 →→	13 指導再開予定	14 大井休み	15 三浦休み	16 	17	18
19	20 敬老の日	21	22	23 秋分の日	24	25
26	27	28	29 乳幼児健診	30 	10/1	2
3	4	5	6	7 	8	9
10	11	12	13	14 	15	16
17	18	19	20	21 	22	23
24	25	26	27 乳幼児健診	28 	29	30
31	11/1	2	3	4	5	6

プール指導は毎週木曜日の午後4時から1時間です。

お休みされる場合には事前にご連絡をお願いします。

(子ども発達支援センター 0123-82-5555)

緊急事態宣言により、子ども発達支援センターは8月30

日(月)～9月12日(日)までお休み予定になります。

よろしく願いいたします。



おやこでクッキングをおすすめする5つの理由

自分が子どものころに比べて、親子の会話時間が短くなったと感じる親が増えているそうです。仕事や家事に忙しい現代ではそうなってしまうのも仕方ないのかなと思います。こうした中で、親子で一緒に料理をするのは貴重なコミュニケーションの機会になります。東京ガス都市生活研究所の調査によると、親子で料理をしている頻度が高いほど家族の仲が良く、幸福感が高い傾向があるようです。

一緒に料理をするには??

①キッチンで五感を養う

料理をしていると、味見によって「味覚」が、材料を扱うことによって「触覚」が、調理中の変化を見ることで「視覚」が、野菜を切ったりぐつぐつ煮たり焼いたりすることで「聴覚」が、食材そのものや調理中に漂う香りから「嗅覚」が育まれていきます。材料を洗ったり、鍋をかき混ぜたり、味見をしたり、簡単な作業を手伝うだけでも、十分に五感が刺激されます。

②基本のスキルを身に付ける

料理のスキルは、生きていくうえで欠かせない力です。「焼く・煮る・炒める・蒸す」という基本的なスキルを身に付けておけば、世界中のどこへ行っても生き抜くことができます。今、国外に勉強や仕事の場を求める人が増えています。そんな時、食べなれた味を簡単に作れるようにしておくことは、子どもの将来の大きな支えになります。

③知識の「実感」を育む

教育現場では、「今の子どもは知識はたくさん身につけていても、実感的な知恵は乏しい」と嘆かれることがあります。例えば「100gはどれくらい重い?」「大きなペットボトルにはどれくらい水が入る?」といった実感がわからない子どもが多いといえます。料理で材料などを計測すると、体積や重さが感覚で理解できるようになります。こうした感覚が身に付くと、算数や理科の勉強で非現実的な数字に出くわした時にも「あれ、これはおかしいぞ。計算がどこかで間違っているかも。」という直感が働くようになるようです。

④まかせて達成感を抱かせる

料理は子どもが達成感を得やすい作業です。達成感を覚えると、子どもはやる気になります。子どものペースに合わせて料理をするのは時間や手間がかかりますが、親は極力手を貸さず、プロセスにも結果にもあれこれ言わないようにします。「カレーにチョコレートを入れてみる?」「牛乳を豆乳に替えてみる?」などと話しながら、試行錯誤のきっかけをつくってあげるのも創造力が育ち、子どもの自信につながります。

⑤レシピを一緒に眺める

「野菜を切る」「衣をつける」「団子のかたちにまるめる」といった、部分的な作業を子どもにまかせるときも、レシピ全体を一緒に眺めます。そしてその作業が全体の中でどんな役割なのかを考えます。なぜ野菜を細かく切るのか、なぜ衣をつける順番が決まっているのかなど、「なぜ?」を一緒に考えることが子どもの能力を伸ばします。

料理は「どうすべきか?」を考える問題解決能力、客観的に自分自信の思考や行動を眺める「メタ認知能力」を育みます。メタ認知能力は幼児期後半から発達し、小学校3年生くらいにしっかりと働くようになり、学力や将来の仕事の能力にも直結するといわれています。

参考文献:『子育てベスト100』ダイヤモンド社

発達障害児の
偏食改善マニュアル
食べられないが食べられるに変わる実践
山根希代子 監修 藤井菜子



偏食で困っている、という保護者の方のお話を聞くことがよくあります。こちらの本、題名が「発達障害児の～」となっていますが、中身は発達障害かそうでないかは関係なく、『偏食で困っている子』向けの内容になっています。「ごはんしか食べない」「混ぜた料理が苦手」など、食事面での様々な困りごとに対しての事例とともに実践についてとても詳しく書かれています。興味がある方は御覧することもできますので、スタッフまでどうぞ(^^)